



課題解決のヒント1

人間の心の科学に注目すると…

現代は、医学や心理学の進歩によって、より多様かつより複雑な人間の思考や行動の過程（プロセス）が明らかになってきています。ここでは2つの例から、次の事柄を説明します。

人間にとって“思う”ことが最も重要な動機

「健康のためには、タバコはなるべく吸わないほうがよい」と理屈ではわかっているけど、実際には「なかなか止められない」と喫煙者の方はよく言います。なぜでしょう。人間の脳の思考過程は、“理屈”から考えるのではなく、“思う”ことから出発することが、科学的にわかってきています。“好き”だから止めたくないのです。したがって“思う”ということなしに人間は納得することができない、つまり“思う”ことが最も重要な“動機”になるといわれています。
(※人間の思考プロセス)

●導入すべき手法・考え方

地域の様々な人々の思いや声を材料とすることで、真の動機を伴った構想を構築します。

人間の“考える”仕組みで“なるべき地域”を導く

下記に示すような自己発見プロセスの方法論を地域づくりに応用すると、地域発見の3つの段階は次のように理解できます。

なりたい自分を知る = なりたい地域を知る

地域も人間と同様に、人々の営み（歴史）によって“現在”が成立しています。ここでは地域の歴史を振り返って再認識し、それらの時代の人々が、果たそうとした想いは何か？を考えることにより、“自分（地域）はどうなりたかったか”という想いを抽出します。

今の自分を知る = 今の地域を知る

将来の自分（地域）を思い描くには、まず現在の自分の顕在化している役割価値だけでなく、可能性としての環境や資源を把握する必要があります。重要なのは、地域の実体をマイナス面から評価しない、現状の肯定が必要です。現状にいかにもポジティブ（肯定的・前向き）な自分（地域）を発見できるか、この点に注意しながら、地域の持っている価値を抽出します。

なるべき自分を知る = なるべき地域を知る

地域が歴史を超えて営んでいくには、一時代の経済的な活況としての地域ではなく、多くの人々に共感してもらえるような“真の心の交流の可能な地域”になっていく必要があります。ここでは上記の2つを並列的に考えることにより、将来の地域のために何が活かせるか、どんな行動がしたいか、来る人々に何を提供できるかを明確にします。

(※心理カウンセリングに見る自己発見プロセス)

●導入すべき手法・考え方

なりたい地域 + 今の地域 = なるべき地域の構想から、時間経過による考え方の変化に対応した構想づくりとします。